福井の戦国 歴史秘話 32

天下分け目の清洲会議

～お市の内に秘めた決意～

織田信長の妹、お市の三姉妹の末娘、江の生涯を描いたNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」。その第7話で取り上げられた「清洲会議」は、信長死後の家臣の命運を決めた歴史の転換点として知られています。その時、お市が内に秘めていた思いはどのようなものだったのでしょうか。

お市の方像

柴田勝家の像

（北の庄城址・柴田公園）

天正10（1582）年6月2日の本能寺の変を受け、信長を討った明智光秀を羽柴秀吉が討ち取りました。その後、織田家筆頭家老の柴田勝家（越前北庄城主）ら諸将は、同年6月27日、尾張の清洲城で、信長の正統な後継者と遺領配分を決める会議（いわゆる「清洲会議」）を開きます。

会議には、勝家、秀吉のほか、丹羽長秀、池田恒興が出席。信長の後継者として、信長の三男、織田信孝を押す勝家と、信長の嫡子、織田信忠の子の三法師（当時3歳）を押す秀吉が対立しました。秀吉の方が根回しが早く、秀吉が主張する筋目論に丹羽・池田が賛成。三法師が家督を継ぎ、秀吉が主導権を握ることになります。そして、もう一つ、この会議のとき、お市の人生を左右する重要なことが決まります。お市が勝家のもとに嫁ぐことになったのです。

なぜ、この時、縁組が決まったのでしょうか。勝家が堀秀政に宛てた書状によると、〝秀吉と申し合わせ…縁辺の儀（お市との結婚）が決まりそうだ〟とあり、秀吉が会議での勝家の不満を抑えるため、勝家のお市への気持ちを汲んで動いたという説があります。

しかし、お市の本心はどうだったのでしょうか。一説には、秀吉が最初の夫、浅井長政を自刃に追い込んだことなどから、お市は秀吉を相当嫌っており、勝家を選んだと言われています。

一方で、〝織田家存続のため、秀吉に対抗する実力がある勝家（そして、手を組む信長の三男、信孝）に賭ける〟、そんな内に秘めた決意をもって嫁いだという説もあります。勝家の妻となった直後の天正10（1582）年9月11日、お市は勝家とともに、京都の妙心寺で信長の百か日法要を行いました。これは、〝自分が信長の死を弔う喪主たる資格のあるもの〟と天下に公表したことを意味します。まさに、お市の決意の表れといえるかもしれません。

法要の翌月、宣教師のルイス・フロイス（後に「日本史」を執筆）は、〝信長の後継者はまだ決まっていない〟と記しています。清洲会議で決まった後継者は名目上のことで、争いは続いていたのです。兄、信長のもと戦国の世を生きてきたお市。本当の覇権を争う「戦」は、清洲会議の後に始まることを冷静に見抜いていたのかもしれません。

関連史料・ゆかりの地

清洲古城跡公園

織田信長の天下取りの出発点であり、また清洲会議が開催されたことで知られる清洲城。慶長18（1613）年、名古屋城の完成と城下町の移転が完了し廃城されました。公園には復元された本丸石垣があるほか、五条川を隔てた対岸には再整備された「清洲城天守閣」があります。

【住所】愛知県清須市清洲古城448番地（名鉄「新清洲」駅下車徒歩20分）

参考資料等
『人物日本の女性史4 ―戦国乱世に生きる―』（お市の方）集英社
『福井県史』通史編3 近世一 福井県

発行／福井県観光営業部ブランド営業課